

# LMcorsa Race Report

## Super GT 2018 Rd,2 Fuji GT



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA



● M.NITTA  
● Y.NAKAYAMA

5月03日 - 04日 | 天候:晴れ | コース:富士スピードウェイ | 路面:ドライ



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA

### *Second Day Summary*

6番手からスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は500kmのロングレースをノーミスで走り切り7位入賞。今シーズン初のポイントを獲得する。

### *Second Day*

2018 AUTOBACS SUPER GT Round2 FUJI GT 500km RACE」の決勝レースが、5月4日(金)に富士スピードウェイで開催された。

前日に行なわれた公式練習と予選は、荒天と濃霧によってスケジュールが大幅に遅れ、本来なら1時間45分に渡って実施する予定だった公式練習は30分に短縮され、予選方法もQ1、Q2のノックアウト方式から全車が一齐にタイムアタックを行なう変則的なスタイルとなった。

マシンのセットアップもままならないほどの慌ただしい中で実施された予選だが、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3を駆った宮田莉朋選手は、見事な走りをみせて6位を獲得した。

4日の決勝日は、午前中にピットウォークやドライバー紹介が行なわれ、13時から25分間に渡ってウォームアップ走行が実施された。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3には、まず宮田選手が乗り込み7周を周回しコースコンディションとマシンの状態を確認。続けて吉本大樹選手も乗り込み、最終的なマシンのセットアップをチェックした。ウォームアップ走行は二人のドライバーが計13周を周回し、長丁場となる500kmレースに臨んだ。



## Second Day

決勝レースは予定とおりの14時40分にパレードラップがスタート。ゴールデンウィーク中の開催ということで5万5000人の大観衆がGT500クラスとGT300クラスの計44台の白熱したバトルを見守ることになった。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は宮田選手が初めてスタートを担当。6番手からスタートすることになったが、序盤はストレートスピードに勝る7号車の



ポルシェや34号車のNSXに先行を許して9番手にポジションダウン。しかし、4周目にはベストタイムとなる1分38秒864をマークしてライバル勢を追った。FUJI GT 500km RACEは、2回のピットストップが義務付けられていて、1回のスティントは少なくとも30周を走行したいというのが、どのチームも想定すること。LMcorsaも、宮田選手の第1スティントを伸ばして、後半の戦略に幅を持たせる展開を狙った。そのため、宮田選手はタイヤを労りながらも安定したペースで走ることが求められた。宮田選手は、チームの要求通りにタイヤとマシンに優しい走りをしつつ25周目にはポジションをひとつ上げて8番手に浮上。30周目には7番手、ピットインのタイミング



となった33周目には6番手にポジションアップして第2スティントを担当する吉本選手にバトンを渡した。吉本選手も宮田選手と同様のラップタイムで順調に走行を続けて、トップ10を走行する全車が1回目のピットストップを終えた45周目には9番手となり、6番手争いを4台のマシンが行なう状況だった。55周目には8番手に、58周目には7番手に浮上して、さらに先行するマシンを追う。上位陣が2回目のピットストップを行なったこともあって、70周目には4番手

にポジションアップし、翌週の71周目に2回目のピットストップを実施。4本のタイヤを交換するとともに給油を行ない、宮田選手が再びSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだ。ピットアウトした時点では13番手だったが、ライバル勢が2回目のピットストップを終えた84周目の時点で、7番手を走行することになる。宮田選手は、1分39秒台の安定したラップタイムで先行車を追うが、6番手を走行する7号車のポルシェとは20秒ほどのギャップがあり、抜くにはいわず101周目に7位でチェッカーを受けた。

RC F GT3が不得意なレイアウトとなる富士スピードウェイだったが、予選で6位を獲得し、決勝レースはドライバーもチームもミスなく完走。今シーズン初めてとなる入賞を果たして、5ポイントを得ることとなった。次戦の鈴鹿サーキットは、RC F GT3の長所が活かせるサーキットなので、さらなる活躍が期待される。

## Team Comment

---



Director : 飯田 章

富士スピードウェイは、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 にとっては得意なコースではありません。そのため、レースウィークに入る前は苦戦することも予想されました。3日の予選日は、荒天によって公式練習が短縮され、一回勝負の予選もチームには追い風となりました。決勝レースはラップタイムも安定していて、7位フィニッシュと予選順位より落ちてしまいましたが、それでもポイントを獲得できたことは良かったです。チームはピットストップや戦略でもミスなく、ドライバーも持てる力を出し切ってくれました。シリーズ戦は、流れに乗ることが重要です。今回のレースをきっかけとして、さらに上位争いができればと思っています



Driver : 吉本 大樹

予選が6番手だったため、決勝レースでは表彰台を狙っていましたが、それだけに7位という結果には悔しさはあります。スタートは初めて宮田選手に担当してもらい、GT500クラスが一齐に後方から迫ってくる状況でも冷静に走っていました。私のスティントは、先行するマシンに押さえられてしまってペースが上がりませんでした。それがなければ、違った展開にもなっていたはずですが。また、私達のチームは2回のピットストップともに4本のタイヤを交換する選択肢しかなかったため、タイヤ無交換を行なったチームに対しては不利な状況でした。それでもポイントが獲得できたことは良かったですし、次戦以降はさらに強くなってレベルの高い戦いを行っていきたいです。



Driver : 宮田 莉朋

初めてスタートを担当したのですが、冷静にタイヤマネージメントして走ることができました。ストレートスピードに勝っているライバル勢に抜かれてしまいましたが、無理して追い上げることをせずに順位をキープすることに専念しました。後半のスティントは、マシンバランスの悪化や、路面がダスティになったことによって想定していたラップタイムに届きませんでした。それでも7番手を守ってチェッカーを受けられたことは良かったです。レースウィーク前には、トップ10に入ることが難しいかもしれないという状況でしたが、吉本選手やチームとともに必死で取り組んできた成果が現れたことが嬉しいです。今後のレースに向けてもポジティブな感覚を得られたので、次戦の鈴鹿サーキットラウンドは期待しています。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**



## Second Day Summary

500kmの決勝レースは、コースコンディションとマシンのセットアップを合わせきれずに苦戦を強いられ101周目に14位でチェッカーを受ける

## Second Day

「2018 AUTOBACS SUPER GT Round2 FUJI GT 500km RACE」の決勝レースが、5月4日（金）に富士スピードウェイで開催された。

前日に行なわれた公式練習と予選は、荒天と濃霧によってスケジュールが大幅に遅れ、本来なら1時間45分に渡って走行する予定だった公式練習が30分に短縮され、予選方法もQ1、Q2のノックアウト方式から全車が一齐にタイムアタックを行なう変則的なスタイルが採られた。

一回勝負となった予選は中山雄一選手が担当したが、アタックラップ中に他車の妨害を受けしまい本来のパフォーマンスを発揮できずに18位に沈んでしまった。だが、クリアラップが取れていればトップ10も見えていたため、決勝レースは追い上げることが期待された。

4日の決勝日は、午前中にピットウォークやドライバー紹介が行なわれ、13時から25分間のウォームアップ走行が行なわれた。K-tunes RC F GT3には、まず新田守男選手が乗り込み、コースコンディションとセットアップを確認。4周を走行してピットに入り、中山選手にドライバーチェンジする。中山選手は8周を走行し、最終ラップに1分38秒838のベストタイムをマーク。ウォームアップ走行は、このタイムによって7番手となり、500kmの決勝レースを迎えることとなった。

決勝レースは予定通りの14時40分にパレードラップがスタート。

ゴールデンウィーク中の開催ということで5万5000人の大観衆がGT500クラスとGT300クラスの計44台の白熱したバトルを見守った。



## Second Day

中山選手が乗り込んだ K-tunes RC F GT3 は抜群のスタートダッシュをみせて、1 周目に 6 台をパスして 12 番手でコントロールラインを通過する。2 周目には 10 号車の GT-R に抜かれてしまうが、序盤は 13 番手をキープ。ところが 10 周を越えるとラップタイムが落ち込み始めて、中山選手からタイヤのグリップダウンが伝えられる。19 周目には 15 番手にポジションを落としたことや、このまま走行を続けてもさらにラップタイムが遅くなることが予想されたため、チームは GT300 クラスの中でもっとも早い 21 周目にピットインを決断する。4 本のタイヤを交換して給油を行ない新田選手にドライバーチェンジ。K-tunes RC F GT3 は、25 番手でコースに復帰する。第 2 スティントを担当した新田選手は、1 分 40 秒台のラップタイムでコンスタントに走行を続けるが、トップ 10 内のライバル勢には周回ごとに遅れを取ってしまう苦しい状況だった。それでも着実にポジションをアップさせ、30 周目には 24 番手、40 周目には 21 番手、50 周目には 16 番手と必死に先行車を追う。第 2 スティントの終盤となる 55 周目には、1 分 39 秒 973 をマークして 59 周目に 15 番手でピットイン。再び 4 本のタイヤ交換と給油を終えて中山選手が最終スティントに入った。19 番手でコースに復帰した中山選手は、すぐにポジションを上げると 77 周目には 17 番手、83 周目には 15 番手とトップ 10 に向けて追撃を行なう。ガソリンタンクが軽くなった終盤には、連続して 1 分 39 秒台のラップタイムで走行したものの、14 番手まで追い上げるのが精一杯で、101 周目にチェッカーを受けて FUJI GT 500km RACE を 14 位で締めくくった。

チーム体制こそ若干異なるものの昨年の富士スピードウェイラウンドでは、RC F GT3 が初優勝を果たしていたために、K-tunes RC F GT は上位進出が期待された。しかし、決勝レースのラップタイムはライバル勢に及ばず、苦戦を強いられる結果となった。しかし、500km のレースを着実に走り切ることで、不調の原因が掴めたという。今回の富士スピードウェイラウンドで得られたデータを活かし、次戦の鈴鹿サーキットラウンドでは初ポイント獲得を狙う。



## Team Comment

---



Director : 影山 正彦

決勝レースは、想定していたラップタイムに届かずに苦戦を強いられました。さらに、第1スティントでは早めにタイヤのグリップダウンが起きてしまい、21周目にピットインを行なうしかありませんでした。ラップタイムは、ライバル勢に対して1周で0.5秒ほど遅れているので、この現状を受け止めて、チームと対策を考えます。昨シーズンに比べてリストラクターが小さくなっているため、トップスピードが伸びないのは仕方ないですが、それ以外にもタイヤの性能を活かすマシンのセットアップに問題ありそうです。次戦の鈴鹿サーキットラウンドは、公式テストで結果が出ているので、気持ちを切り替えて挑みたいと思います。

---



Driver : 新田 守男

決勝レースは第2スティントを担当したのですが、セットアップや使用するタイヤがコースコンディションと合っていなかったようで、神経を使いながら周回しました。また、ピットアウトしたタイミングがGT500クラスの集団と重なっていたことなど、運に見放されたところもありました。燃料を消費した後半には、もう少しラップタイムが上がると思っていましたが、前半とそれほど差がありませんでした。開幕戦と今回の富士スピードウェイラウンドでポイントを獲得できなかったことを考えると、根本的にマシンのセットアップを変更する必要があるようです。

---



Driver : 中山 雄一

予選ではコースコンディションと選択したタイヤが合っていましたが、決勝レースでは噛み合わずにペースが上げられませんでした。それでも硬めのコンパウンドを選択した後半のスティントは、良いフィーリングを得られました。K-tunes RC F GT3は、100Rなどの高速コーナーは速いのですが、セクター3のような低速コーナーを苦手としています。どうすれば、このウィークポイントを解消できるかチームと考えて、次戦以降を戦っていきます。次の鈴鹿サーキットは公式テストで良いフィーリングだったため、上位で競えることを期待したいです。

---



**ktunes**  
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**